

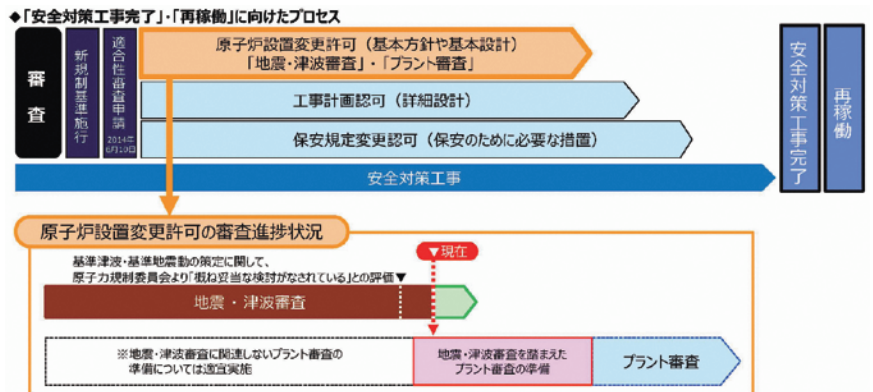
稚魚放流体験をする児童たち

老部川 サケの稚魚放流が行われました

4月18日、老部川において、東通小学校2年生33名が、サケの稚魚放流を体験しました。この課外活動は、自然を愛し、優しい心で動植物などの生き物に親しむ心を育てることを目的に、老部川内水面漁業協同組合（西山忠一組合長）や下北地方水産事務所などの協力のもと、行われました。下北地方水産事務所担当者の説明によると、今回、放流した稚魚は成長後、2年生が6年生になる頃に、再び老部川に戻ってくるといいます。児童たちは「元気に帰ってくるんだよ」等と声を掛けながら放流していました。



東北電力からの説明



東通原子力発電所東北電力1号機安全対策工事の完了時期 見直し

4月22日、東北電力から畑中村長に対し、東通原子力発電所東北電力1号機における安全対策工事の完了時期の見直しについて説明がありました。

東北電力は、東北電力1号機の再稼働のため、2014年6月に、原子力規制委員会に対して、新規規制基準適合性に係る審査の申請を行い、現在、同委員会において、審査が進められています。この度、地震・津波の審査後に行われるプラント審査に向けて、「1000万年に1回程度発生する可能性のある津波（PRA津波）」に関して対策を検討するとともに、それに伴う審査や工事への影響について、詳細な評価が必要となったことから、2024年度の工事完了が困難な状況であると判断し、工事完了時期を見直すとともに、新たな工事完了時期については、プラント審査の準備が整い、今後の工程の見通しが得られた段階で改めてお知らせするとの報告を受けました。

畑中村長から東北電力に対し、就任以降3年の内に2回目の見直しであり、非常に受け入れ難く、驚いている。改めて示す安全対策工事の完了時期については、再度の見直しがないよう、確度の高い工程の見通しが得られる然るべきタイミングで提示して頂きたい。また、今回の見直しが地域へ与える影響の大きさをしっかりと受け止め、会社としてこの先、どのように対応して行くのか検討するとともに、村民に対し、早期に丁寧に説明を行うことなどを求めました。